

## ★思考と言語研究会 (TL)

専門委員長 近藤公久 副委員長 久保村千明・鈴木雅実  
幹事 乾 孝司・黒田 航 幹事補佐 富田英司・坪田 康

日時 12月12日(土) 13:30~17:50  
13日(日) 10:15~16:40

会場 早稲田大学 8号館 303/304/305号室(新宿区西早稲田1-6-1, 東京メトロ東西線:早稲田駅から徒歩5分.  
<http://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus> 原田康也)

議題 テーマ1:言語と学習・言語の学習, テーマ2:意味の創発・場の共創, テーマ3:法と言語・言語と法  
12日

1. 4種類の学習者コーパスにみる中国人日本語学習者の複合動詞V2「合う」の使用 張 琪(神戸大)
2. 話し言葉・書き言葉における句動詞使用—コーパスに見る日本人英語学習者と英語母語話者の比較研究—  
前浜知味(神戸大)
3. [招待講演] The ICNALE: A New Learner Corpus for International Contrastive Interlanguage Analysis  
Shin'ichiro Ishikawa (Kobe Univ.)
4. The effect of Japanese accents on employment-related decisions Lisa Nabei (Tokai Univ.)
5. 日本人英語学習者の目的格関係節文理解における名詞の有生性情報利用—音声提示による検討—  
○平野亜也子・横川博一(神戸大)
6. 日本人大学生英語学習者による平叙文・疑問文の再生と平叙文から疑問文への転換  
○原田康也(早大)・森下美和(神戸学院大)

### 13日午前

1. 意識と脳内情報に関する一考察—特にハードプロブレムに関して— 野口豊太(JCSS)
  2. 日本語習得過程におけるネットワーク形成と社会参加—在日インド人ビジネスパーソンの事例から—  
鈴木真奈(早大)
  3. 近年の「普通に」の言語使用における泡沫性ポライトネス効果 ○緒形杏史由・首藤佐智子(早大)
- ポスター紹介(12:00~13:00)
4. 日本語の文章に対する評価の研究の今後の可能性—メールの読み手の評価を対象として—  
菊池理紗(実践女子大)
  5. 日本語学習者が形成するネットワークはどのようにことばの学びに影響するか—EPA インドネシア人看護師・介護  
福祉士候補者の事例を通して— 加藤真実子(早大)
  6. 日本語教育に対する民間支援の在り方—短期訪日研修助成の事例から—  
太田亜樹子(早大)

### 13日午後(13:15~)

7. [招待講演] 日本人のための活用発信型の司法英語辞典 ○鳥飼慎一郎・溜箭将之(立教大)
8. 分散意味表現を利用した法令文に対する文構造解析の検討 ○長濱一真・竹内和広(阪電通大)
9. 民事事件の裁判記録のためのオントロジーに関する一考察  
○桐生雄也・伊藤 篤(宇都宮大)・笠原毅彦(桐蔭横浜大)・渡辺 裕・藤井雅弘・羽多野裕之(宇都宮大)
10. [招待講演] 前提を伴う表現の司法コンテキストにおける取り扱い—ガルスバハ事件における誤訳問題—  
首藤佐智子(早大)

◆早稲田大学情報教育研究所, 早稲田大学言語情報研究所共催

### 【問合先】

原田康也

E-mail: [harada@waseda.jp](mailto:harada@waseda.jp)